



平成 22 年 11 月 11 日

各 位

株式会社 アプリックス

東京都新宿区西早稲田二丁目 18 番 18 号
(コード番号：3727 東証マザーズ)
代表者 代表取締役 郡山 龍
問合せ先 執行役員(財務担当) 伊藤 洋
電話番号 03-5286-8436

営業外費用と特別損失に関するお知らせ

平成 22 年 12 月期第 3 四半期累計期間において、下記のとおり営業外費用及び特別損失を計上しますので、お知らせいたします。

記

1. 営業外費用の計上

(1) 為替差損

平成 22 年 12 月期第 3 四半期累計期間において、為替相場の変動による影響により、平成 22 年 9 月末で主に連結子会社が保有している外貨建債権等に起因する為替差損 31 百万円を計上することといたしました。
なお、上記の金額は平成 22 年 12 月期 第 3 四半期末時点の為替相場による為替差損であり、通期の為替差損の額は、平成 22 年 12 月期末の為替相場により変動いたします。

(2) 投資事業組合運用損

平成 22 年 12 月期第 3 四半期累計期間において、当社グループが保有しております投資有価証券(投資事業有限責任組合)について、出資持分に応じた投資事業組合損失 36 百万円を計上することといたしました。
この費用計上額は投資事業組合の業績によって変動するもので、業績が好転した場合は、この投資事業組合損失から相殺いたします。

2. 特別損失の計上

平成 22 年 12 月期第 3 四半期累計期間において、当社が保有しております投資有価証券につきまして、資産の健全性をより高めるため、その投資先の財政状態及び業績状況を精査し、回収可能性を保守的に判断いたしました結果、減損処理による投資有価証券評価損 52 百万円を計上することといたしました。

	連結	個別
(A) 平成22年12月期第3四半期会計期間(平成22年7月1日から平成22年9月30日まで)の投資有価証券評価損の総額(=イ-ロ)	52 百万円	52 百万円
(イ) 平成22年12月期第3四半期累計期間(平成22年1月1日から平成22年9月30日まで)の投資有価証券評価損の総額	52 百万円	52 百万円
(ロ) 直前四半期累計期間(平成22年1月1日から平成22年6月30日まで)の投資有価証券評価損の総額	—	—

※四半期における投資有価証券の評価方法は、切放し法を採用しております。

※当社の決算期末は、12月31日です。

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。

よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

○純資産・経常利益・当期純利益に対する割合

	連結	個別
(B) 平成 21 年 12 月期末の純資産	11,973 百万円	11,805 百万円
(A/B×100)	0.4%	0.4%
(イ/B×100)	0.4%	0.4%
(C) 平成 21 年 12 月期の経常利益	123 百万円	379 百万円
(A/C×100)	42.3%	13.7%
(イ/C×100)	42.3%	13.7%
(D) 平成 21 年 12 月期の当期純利益	21 百万円	162 百万円
(A/D×100)	247.6%	32.1%
(イ/D×100)	247.6%	32.1%

※ 平成 21 年 12 月期の連結及び個別における経常利益及び当期純利益は、それぞれ 10 億円未満であるため、最近 5 事業年度の平均額としております。なお、平均値を算出する際、損失の事業年度は 0 として算出しております。

3. 今後の見通し

本日開示しました第 3 四半期決算短信の記載のとおり、現時点においては平成 22 年 12 月期の通期連結業績予想について、修正の必要はないものと考えております。

以上

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。

よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。